日本建築学会九州支部研究報告
第 61 号　2022 年 3 月

ワークショップ参加者の属性にみる提案の傾向と段階的な整備方策
ー大分県佐伯市における学校跡地利用計画の策定プロセスに関する研究　その 2ー

準会員　横田　彩夏[*1]　　正会員〇姫野　由香[*2]　　同　宮下　達平[*3]　　同　轟木　龍介[*3]

7.都市計画— 8.参加と組織—b. ワークショップ

公共施設再編　ワークショップ　市民参加

1　研究の背景と目的

現在,地方都市においては,公共施設の老朽化や遊休不動産化は共通の課題となっている。なかでも,公共施設に占める学校施設の割合は5割を超えており[1)],公共施設再編に伴う学校の統廃合により,廃校となった施設の利活用が各地で検討されてきた。その数は,2018 年度までに 4905 件にのぼる[2)]。

公共施設再編においては,計画段階から市民参加のプロセスを経ることにより, 共用開始後の主体的利用や運営の担い手確保などが期待される。市民参加手法に関する赤沼ら[3)]の研究によると,アンケート調査は広く浅く意見を集めるための手法であるのに対し,ワークショップ(以下,WS)は踏み込んだ議論を行えるため,建設的な議論を進めるための手法と評価されている。田口[4)]は,まちづくり活動がされていなかった地域が,WS を通じて住民主導の活動が始動した事例を報告しており,活動を主体的に進める気力・体力のある住民が一定数いることがプロジェクトの初動につながる条件としている。そのため, 公共施設再編においては活動的な参加者と WS を開催することは,市民による主体的かつ継続的な施設利用につながると考えられる。

大分県佐伯市では,2016 年 3 月に旧佐伯豊南高校が統廃合し,校舎の利活用を検討している。佐伯市の中心市街地と郊外商業集積地の中間地点にあり,同市のランドマークである番匠川に隣接し,城山を望む場所に位置する。閉校後,耐震性に問題のない校舎の一部が利活用されないままとなっている。

そこで本研究では,旧佐伯豊南高校跡地(以下,跡地)利活用を検討するため, WS で出された意見をもとに班ごとの意見の傾向と,跡地利用のゾーニング案を検討する。そして,今後の WS で議論すべき課題を明らかにすることを目的とする。

2　研究の方法

前稿その 1 では, 対象地域の立地特性と全国の廃校事例の動向から WS の参加者属性に関する示唆を得た。

本稿その 2 では, 市民参加による WS の開催にあたり,COVID-19 感染拡大状況を鑑みて,限られた人数でも実践的な意見を得るために,その 1 で得た WS 参加者属性をもとに班構成を検討した(3 章)。また, 全 4 回のうち第2回までを実施した成果を用いて,参加者属性によって構成された班ごとの提案の傾向を分析した(4 章)。さらに, 段階的な跡地利活用の視点から,利活用施設に求められる機能と時期を勘案し,ゾーニング案を検討した(5 章)。それによって, 今後の WS で議論すべき課題を明らかにする。

3　WS の概要

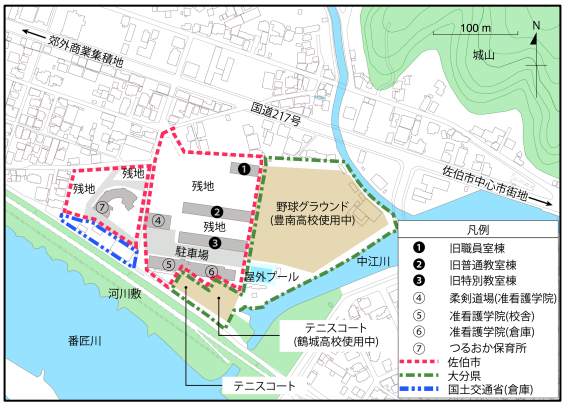

図 1　対象地の利活用状況

3-1 対象地の立地について

研究対象である跡地(図 1)は,大分県佐伯市鶴岡町の第二種住居地域に位置し,南西に一級河川である番匠川,北東に標高 144m の城山を望む場所に位置する。また,国道 217 号線に近接しており,2km 西に小売店が集まる郊外商業集積地(コスモタウン),1.8km 東に佐伯市中心市街地があり,中間地点に立地する。

3-2 旧佐伯豊南高校利活用のこれまでのプロセス

跡地の現在の利用状況と所有者を図 1 に示す。ま

The phased renovation system and propensity of citizen voice based on the profile of workshop member
A study on the process of formulating a school site utilization plan in Saiki city Oita prefecture　–　Part 2

YOKOTA　Ayaka,　HIMENO　Yuka,　MIYASHITA　Tappei,　TODOROKI　Ryusuke

表 1　旧佐伯豊南高校利活用のこれまでのプロセス

年月	旧佐伯豊南高校跡地に関する出来事
2016年3月	旧佐伯豊南高校閉校
2018年3月	佐伯市と大分県にて売買本契約
2019年4月	旧第2グラウンドの一部につるおか保育所(図1⑦)を新設・開園
2019年6月	旧屋内運動場、管理棟及び渡り廊下等を解体撤去
2020年4月	旧商業実践棟、旧家庭科棟及び柔剣道場を改修し、 佐伯准看護学院校舎として開校
2021年2月	旧職員室棟(図1❶)1階部分を桝形・藤原区集会所として利用開始
2021年4月	旧職員室棟(図1❶)2階部分を改修し、 佐伯サテライトオフィスとして開所
2021年10月	第1回旧佐伯豊南高校跡地利活用計画検討ワークショップ実施 第1回旧佐伯豊南高校跡地利活用計画検討委員会実施
2021年11月	第2回旧佐伯豊南高校跡地利活用計画検討ワークショップ実施

た,跡地に関する現在までの経緯を表 1 に示す。2016 年 3 月の閉校後,大分県所有であった跡地のうち,旧第 2 グラウンド(現つるおか保育所⑦)と校舎部分の土地,建物が佐伯市所有となった。その後 2019 年 6 月に,佐伯市によって耐震性に問題のある一部校舎が解体撤去された。大分県所有のグラウンドとテニスコート 2 面のうち 1 面は,県立高校の部活動で利用されている。2020 年 4 月には,佐伯市医師会の運営により佐伯准看護学院の校舎として④⑤⑥が使用開始された。さらに 2021 年 4 月には佐伯市によって旧職員室棟❶が,地区集会所とサテライトオフィスとして暫定的に使用開始された。佐伯市所有の教室棟❷❸とその周辺の残地は,現在,利活用方針が決まっていない。

そこで,❶❷❸と周辺の残地の利活用方法を検討するために,2021 年 10 月より市民による WS が開催されている。また,並行して旧佐伯豊南高校跡地利活用計画検討委員会[注 1)](以下,委員会)が WS で出された提案を,より実践的に検討し,鶴岡地区住民の意見も反映させる目的で設置されている。

3-3 佐伯 WS の概要

佐伯 WS では地域の魅力や課題を把握,共有し,地域に求められる機能や施設を考えると共に,跡地に求められる持続可能な活用方策を検討する。日時や参加者数,内容などの概要を表 2 に示す。これまでに 2021 年 10 月,11 月の計 2 回開催された。

COVID-19 感染拡大状況を鑑みて,佐伯 WS 参加者は限られた人数で構成する必要があった。そのため公募は行わず,その 1 で得た WS 参加者決定の示唆をもとに,既に市内で様々な活動を展開している人物や地域住民,保育士,生徒といった学校関係者を参加者とした。

また,班ごとに多様な意見が検討されるよう表3に示すように,参加者を属性ごとに,4 班に分けた。1 班は主に鶴岡地区住民,2 班は跡地周辺で働く人物,3 班は移住者やアウトドア活動関係者,4 班は創作活動やアートに関わりのある人物で構成した。

4　佐伯 WS での班ごとの意見の傾向

表 2　佐伯 WS の概要

第1回旧佐伯豊南高校跡地利活用計画検討ワークショップ			
概要	日時	2021年10月6日19:00～21:00	
	場所	佐伯市役所大会議室	
	参加人数	参加者17名/事務局5名/オブザーバー1名/大分大学(理工学部)9名	計31名
	内容	4班に分かれ2つのワークを行った。 【ワーク1-1】 旧豊南高校跡地を含む佐伯市街地の魅力・課題を検討し,班で共有 【ワーク1-2】 跡地で「やってみたい行為」・「あるべき機能」を考え,意見出しを行う グルーピングを行い,想定される利用者,連携すべき人や団体も検討する	
第2回旧佐伯豊南高校跡地利活用計画検討ワークショップ			
概要	日時	2021年11月5日19:00～21:00	
	場所	佐伯市役所大会議室	
	参加人数	参加者16名/事務局5名/大分大学(理工学部)8名	計29名
	内容	事例紹介を行い,第1回と同じ班構成で2つのワークを行った。 【ワーク2-1】 10年後の自身の置かれている状況を想像し,シナリオカードに書く 【ワーク2-2】 跡地のどこにどんな機能を配置するかを考え,配置図上にゾーニングをする	

表 3　佐伯 WS 参加者の概要

班	職業	備考	性別
1	自営業(革工房)	鶴岡地区住民/革職人	男
	自営業(酒屋経営)	鶴岡地区住民	男
	佐伯市職員	鶴岡地区住民/防災危機管理課	女
	佐伯市職員	鶴岡地区住民/文化芸術交流課担当	男
2	まちづくり関係者	移住者	男
	医療関係者		男
	佐伯准看護学院職員		女
	佐伯市職員	つるおか保育所保育士	女
	佐伯市職員	つるおか保育所管理栄養士	女
3	自営業(アウトドア関係)	元地域おこし協力隊	男
	地域おこし協力隊	観光課/サイクツーリズム	女
	地域おこし協力隊	弥生振興局/アウトドア	男
	高校生	佐伯豊南高校	男
	高校生	佐伯豊南高校	男
	佐伯市職員	建築住宅課/まちづくり活動	男
4	多文化共生マネージャー		女
	自営業(木工工房)	木工作家	男
	障がい者複合施設関係者	障がい者支援(アート)/映画制作活動	男
	障がい者支援施設関係者	障がい者支援(アート)/音楽活動	男
	佐伯市職員	建築住宅課	男

佐伯 WS2 回分の意見をまとめ,表 4 に示す。

【1 班】主な参加者は鶴岡地区住民である。ワーク 1-2 では鶴岡地区住民のための「交流」機能を持った施設が多く提案された。ワーク 2-1 では鶴岡地区の年齢層の変化や住民の入れ替わりが想定された。それによって,ワーク 2-2 では鶴岡地区に移住した人も利用者に想定したフリースペースが提案された。そのことから 1 班は,跡地を鶴岡地区住民の交流の場とする意見が出される傾向があった。

【2 班】主な参加者は跡地周辺で就業している者である。ワーク 1-2 では「教育」や,健康のための「運動」施設の提案が出され,ワーク 2-2 では現在跡地にある准看護学校と保育所と連携して利用できる市民農園が提案された。このように,2 班では 「教育」や体を動かすことを通して鶴岡地区住民と現在の跡地利用者が交流できる施設を望む意見が出される傾向にあった。

【3 班】主な参加者は移住者やアウトドア関係者である。ワーク 1-2,2-2 でスケートボード場やアーバンキ

表 4　WS で出た班ごとの意見

班	ワーク1-1 佐伯市街地の魅力と課題				ワーク1-2 跡地にあるべき施設の提案		ワーク2-1 10年後の変化の想定		ワーク2-2 施設を跡地にゾーニング	
	魅力	意見数	課題	意見数	機能	跡地にあるべき施設	分類	シナリオカード内容	機能	ゾーニングされた施設
1 地元	暮らし 景観	5 2	公共施設 暮らし 防災 その他	7 3 2 3	交流	フリースペース/温浴施設(シャワー等)/幼児児童施設(落書き等)	交流	シェアリングの普及/鶴岡住民の年齢層の変化/鶴岡への移住増加/自治会存続の危機	教育	不登校児の施設
					防災	避難所	住む	空き家/空き地の増加	アート	工房,共同工房
					物販	スーパーマーケット	防災	番匠川への恐怖心	交流	フリースペース
							教育	不登校児の増加		
2 跡地	就業 景観 観光 医療 その他	6 4 4 2 4	交流 住居 就業 その他	3 3 2 7	教育	専門学校/放課後自習室	交流	働く高齢者の増加/高齢者が仕事サポート/趣味の活動増加/活動的な人の増加/人口減少/少子高齢化	交流	市民農園
					交流	市民農園				
					運動	サイクル拠点/スポーツジム/公園				
					働く	貸店舗/サテライトオフィス				
					物販	生鮮食品の直売所				
3 アウトドア	景観 防災	9 1	交流 教育 防災 その他	5 2 2 3	教育	野外教室	交流	佐伯市への移住者増加/シェアリングの普及/ネット環境の充実	教育	野外教室
					アート	ギャラリー			運動	スケートボード場/サップ/アーバンキャンプ場
					運動	スケートボード場/サップ/BMX/アーバンキャンプ場	住む	住む場所の多様化/空き家,空き地の増加	防災	避難所
					住む	宅地	働く	働き方の多様化	働く	コワーキングスペース/カフェ
					働く	コワーキングスペース/ハンドメイド販売店/カフェ				
4 アート	交流 観光 アート その他	4 3 2 1	観光 アート その他	3 3 4	教育	eスポーツの学校	交流	核家族の増加/自治会存続の危機/ネット環境の充実	アート	工房,共同工房
							住む	住む場所の多様化/空き家,空き地の増加	住む	住居
					アート	工房,共同工房/ギャラリー	働く	働き方の多様化		
							防災	災害に敏感になる		

ャンプ場,コワークングスペースの提案があるように,趣味や仕事を通して「交流」を促進する意見が提案された。どの提案も佐伯市内に限らない多様な利用者を受け入れる,多世代交流を意識した提案を行う傾向にあった。

【4 班】参加者は主にアートに関わりのある人物である。ワーク 1-1 で佐伯市内にアーティストが多いことを魅力とする一方で,アーティスト同士やアーティストと市民との交流機会が少ないことが課題にあがった。その対策として,ワーク 1-2,2-2 でアートを通じた「交流」活動や施設の提案が中心であった。

全体を通じて,「交流」を望む意見が最も多く,次いで,「教育」「アート」や,健康を意識した市民農園や「運動」に関する意見もあった。また,「防災」を意識した日常使いできる避難所が提案された。これらは「交流」を中心に提案されたものであり,班ごとの参加者属性が「交流」の方法を多様にしたと考えられる。また,施設の運営費や維持費を考慮して,「働く」機能が支える収益を上げられる仕組みや施設の提案が出された。

5　跡地ゾーニング案の提案

その 1 より,費用の問題から,段階的に活用することを想定し,WS で提案された施設が実現する際の改修の程度を ABC に分けたものを表 5 に示す。表 5 で改修の程度が A 又は A/B のものから配置した,短期に実現可能なゾーニング案を図 2 に示す。まず,アクセスもし

表 5　提案施設の改修の必要性の程度

機能	施設	屋内外	改修の程度
教育	専門学校	●	B/C
	放課後自習室	●	A
	野外教室	○	A
	eスポーツの学校	●	B/C
	不登校児の施設	◎	B/C
	環境学習施設(※1)	◎	A
アート	工房,共同工房	●	A
	ギャラリー	●	A
交流	フリースペース	◎	A
	幼児児童施設(落書き等)	◎	A/B
	温浴施設(シャワー等)	●	C
	市民農園	○	A/B
運動	スポーツジム	●	A
	公園	○	B
	健康施設	◎	B
	スケートボード場	◎	B
	サップ	○	B
	BMX	○	B
	アーバンキャンプ	○(※2)	A
防災	避難所	◎	B/C
住む	宅地	◎	C
	住居	●	C
働く	サテライトオフィス	●	A/B
	コワーキングスペース	●	A/B
	スーパーマーケット	●	A/B
	野菜,魚の直売所	◎	A/B
	ハンドメイド販売店	◎	A
	カフェ	◎	B/C

凡例

● 屋内　A 改修なし/日曜大工程度の改修(家具,器具持ち込み,施錠設備等)

○ 屋外　B 構造部にかからない改修 間仕切りの設置等

◎ 屋内外　C 構造部にかかる改修,水回りの改修 ※トイレ,電気工事を除く

※1 委員会の意見をもとに追加

※2 屋上を含む

やすく,人目につきやすい国道近くで面積の一番広い残地 A に「運動」「交流」を実現する市民農園と,アー

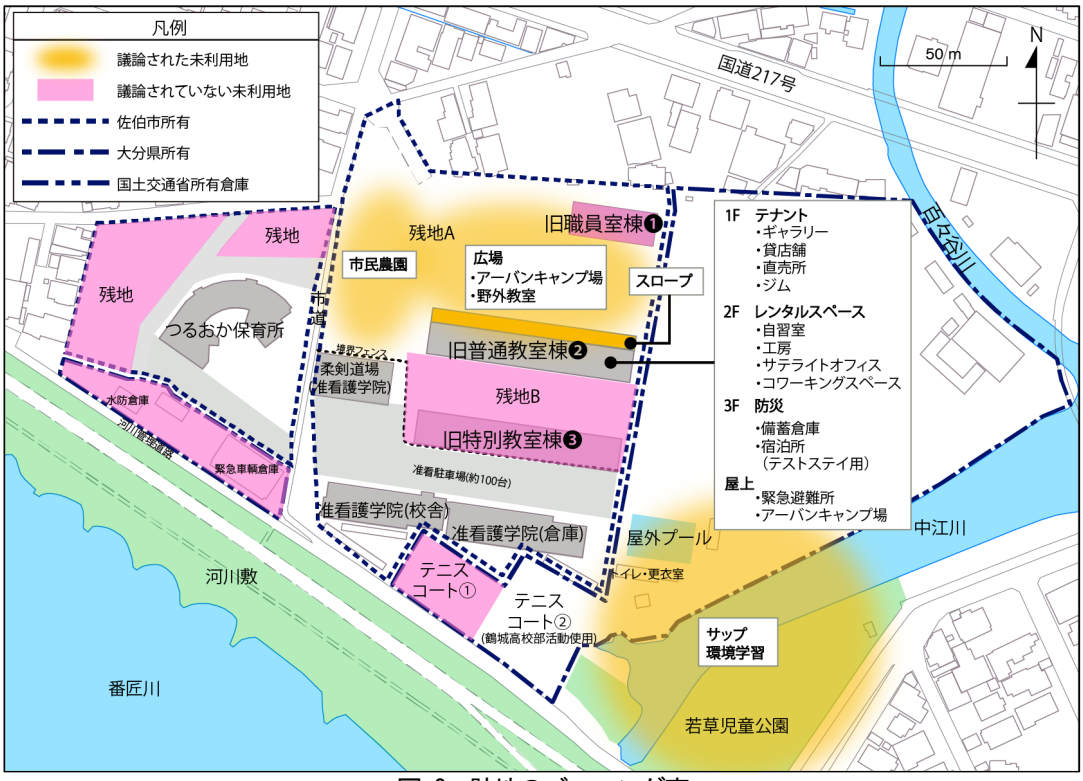

図 2　跡地のゾーニング案

バンキャンプ,野外教室の広場を配置する提案が多かった。❶は短期的には集会所とサテライトオフィスを残し,残地 A に近い❷から利活用を行うことが適当であると考えられる。❷の 1 階は「働く」「運動」を実現するテナントや運動施設を,2 階には緊急時に避難所,また,「働く」「教育」を実現するサテライトオフィスや放課後自習室などの設備の少ないレンタルスペースを設ける。中長期的な視点から 3 階は主に備蓄倉庫とし,緊急時に避難所となる宿泊施設を配置する。屋上は,高さや景観を活かして,緊急避難所やアーバンキャンプ場とし「防災」「運動」を配置することで WS で提案された日常使いできる避難所を実現する。さらに,屋外プール南側の空間では中江川を利用して「教育」「運動」を実現する環境学習やサップのための空間とした。

6　総括

本稿その 2 では, 参加者属性ごとに WS で出された提案の傾向を考察した。また、WS で出された提案の必要な改修の程度から跡地での段階的な利用のゾーニング案を検討した。

佐伯 WS では,「交流」機能を望む意見が多く,それらを実現する機能として,「教育」「アート」「運動」「防災」があげられた。また,収益事業の必要性も指摘された。

さらに,その 1 で費用の問題のため段階的な改修を検討する必要があるとされていることから,提案を実現する施設の段階性を改修の程度によって検討した。

さらに敷地内条件を考慮し,跡地利用ゾーニング案を検討したところ,WS 意見実現のため, 利用者の駐車場,施設間の動線をどうするか,残地 B や❸をはじめとする第 2 回佐伯 WS までに議論されていない未利用地など,検討すべき今後の課題も明らかとなった。

【補注】

1) 委員会のメンバーは学識者,自治会会長などの地域住民代表,商工会議所関係者で構成されている。

【参考文献】

1) 総務省「防災拠点となる公共施設等の耐震化推進状況調査報告書(防災拠点となる公共施設等の耐震化の状況(施設区分別))」,令和 3 年 10 月 28 日現在による
2) 文部科学省「平成 30 年度 廃校施設等活用状況実態調査の結果について」,平成 31 年 3 月 15 日
3)赤沼大輝,桂達也,志村秀明(2016.8)『公共施設再編における市民参加の方法に関する研究』,日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)
4)田口太郎(2019.2)『住民による主体的まちづくりを初動させる「先よみワークショップ」の開発-集落点検を起点とした連続ワークショップ-』,日本建築学会技術報告集,第 25 巻,第 59 号;pp315-319

*1 大分大学理工学部創生工学科建築学コース　学部生
*2 大分大学理工学部創生工学科建築学コース・助教　博士（工学）
*3 大分大学大学院工学研究科博士前期課程　大学院生

*1 Undergraduate Student, Oita Univ.
*2 Research Associate, Faculty of Science and Technology, Oita Univ., Ph.D
*3 Graduate Student, Oita Univ.